

学校法人 聖ヶ丘学園 聖ヶ丘教育福祉専門学校附属 育和幼稚園

2020年度（令和元年）自己評価結果公表シート

育和幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2020年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：常勤教職員22名（在籍23名中1名は育児休暇取得中）
- (2) 実施日：2021年2月2日～12日
- (3) 実施方法：職員全体会議において、常勤教職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的：本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育 方針：子どもの自発的な活動が確保されるような環境を整え、子ども一人ひとりの個性を尊重し、遊びを通して社会性、想像力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培う役割を担います。

教育 目標：○自分で考えて主体的に行動できる子 ○相手の気持ちを考えそのうえで自分を表現できる子 ○夢を描ける子

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

今年度は、二度目の自己評価の取組となる。4月に行う園内研修において、2020年度の事業計画及び基本方針を職員と共有し、園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を2月～3月に実施する。職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していく。また、今後教職員全体の共通理解を深め、さらによりよい園の運営を図る足掛かりとしたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由
I 教育目標 ・教育方針	新年度に向けて、全職員が教育目標・方針について研修を行なった。教育目標・方針を頭に入れながら保育を行うことにより目指す方向が明確となり、一貫した保育を行う方向に向かうことを目指した。教育方針など定期的に見直すことができなかったことは課題として残る。 1学期は、新型コロナウイルス感染防止対策のために園内の衛生環境の徹底に費やす時間が多かったことや在宅勤務期間があり職員が行う研修の機会が少なかった。しかし、在宅勤務では、個々の学びの機会を作り『幼稚園教育要領』の理解に努め、園の教育目標を深める機会となった。2学期以降は不

	<p>安な子どもたちを十分受け入れ教育目標を意識しながら、子どもたちにとって最適な保育方法について検討し合い、その時々の子に合った保育を心がけた。</p>
<p>II 教育課程 ・指導計画</p>	<p>幼稚園教育要領を基本として、育和幼稚園独自の教育課程を編成している。職員間で子どもの姿について話し合い、子ども達の発達の状況は理解しているが職員全体で共有し周知するための時間の調整ができなかった。教育課程と指導計画は、昨年度より取り組み始めたウェブ型記録やウェブ式指導計画とのつながりをさらに職員間で共有できることを目指していく。また、日々の保育に必要な教材研究の取組や子どもたちの「やってみたい」に応じた保育の計画に取組む姿が見られた。今年度は、コロナ禍により地域の自然や施設を活用することができなかった。</p>
<p>III 教育環境</p>	<p>今年度は、コロナ禍により園庭・室内の環境が密にならない工夫をおこなった。1学期の休園期間（4・5月）は、例年子どもたちが経験する野菜やアサガオなどの栽培を職員が行った。植物が成長する様子をHPやお手紙で情報を伝え、視覚体験後、6月以降の分散登園で成長を喜び合った。秋には、芋ほりの収穫をおこなった。9月当初不安な様子が見られた子どもたちであったが、子どもたちの動きや視線の動きに気を配り、自らが経験し自らが体験してできる環境づくりに努めた。運動会后、友達の存在を意識し協働する姿が見られるようになったため、サッカーやドッチボール、製作など進めやすい環境づくりを行った。環境の構成については、職員間で意見交換ができなかったため、今後の課題としたい。</p>
<p>IV 教育の内容・方法</p>	<p>教育課程を基に、子どもの主体性を大切にしたい保育の進め方について学年ごとに話し合いを行い、援助の内容が工夫できるよう検討した。子どもの興味関心にそった保育を進めることにより、5領域のねらいや内容、10の姿（幼児期に育てたい姿）に深く関連があることを職員間で共有し、保育の質について学び合いを行っている。遊びを通してルールを学び、我慢する経験を積めるよう、一人ひとりのかわりを丁寧に行い園全体で共有している。</p>
<p>V 教師の役割 ・資質向上</p>	<p>本園では、幼児の発達の姿をとらえるための研修を定期的実施するとともに日々の子どもの姿について職員間で話し合う機会をもっている。また、各研修会や研究会に参加し学んだことについて資料提出を行っている。数回ではあったが、研修会で学んだことを発表形式とし、園内研修で意見交換し全員が理解を深められるようにした。今後は受講した研修について紹介できる機会が必要と考える。</p>
<p>VI 子育て支援</p>	<p>在園児の保護者の子育て相談については、各家庭の実態を踏まえ、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を大切に支援している。また、必要に応じて専門機関の情報提供を行い、園は関係機関との連携を図っている。未就園児の親子が定期的に登園するプログラムを提供し、存分に遊べることはもちろん、保護者同士や保護者と保育者の関わりの中で、子育ての悩みや抱え</p>

	<p>ている相談に応じている。また、今年度は、就園に向けて個人面談を行った。</p> <p>外部の親子の交流の機会は、コロナ禍により園庭開放は、開催が数回となった。</p>
VII 地域住民や関係機関との連携	<p>コロナ禍により、今年度は地域の高齢者交流・特別養護老人ホームやケアプラザへの訪問、また、地域の方との交流はすべて中止となった。また、幼小連携についても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年のような直接的な幼小の交流ができなかったが、連携先の常盤台小学校がDVDを作成し小学校構内について紹介やクイズ形式（10問）で園児が興味関心をもつよう工夫したものを提供していただいたため、園児は映像を通して小学校に期待を持つことができた。園側は、小学校の児童宛に感想や質問を手紙に書き、自分たちの幼稚園クイズを作成して、お手紙を書くなど幼小の交流ができた。</p>
VIII 運営管理	<p>職員間で就業規則などの規約を確認し、守秘義務を守り、質の高い保育を目指している。聖ヶ丘学園本部及び同附属園との連携を密にして、業務の効率化と改善に向け、人事労務・財務等の面から分析を行い実施している。</p> <p>様々な事態を想定した避難訓練を実施し、園児の安全確保に努めた。また、保護者の話に耳を傾け、その様子について報告連絡相談が徹底されていた。園の施設の安全点検は、担当の職員が丁寧に行っている。</p>

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>二度目の自己評価の取り組みとなる。4月に行う園内研修において、2020年度の事業計画及び基本方針について職員と共有し、園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することができた。当園では、役職や経験年数に関わらず同僚性として語り合うことを目標としているが、自己評価からも職員全体で話し合う機会が不足していると感じる。いかにして時間を捻出していくか、また、保育の課題等への共通理解や協働性を高め、幼稚園全体としての保育の質の向上を図るために、個々が行ったチェックリスト（自己評価）や振り返りをもとに意識をもって活用していくことを今後の課題としたい。</p> <p>今年度は、コロナ禍により、VII「地域住民や関係機関との連携」を取ることができなかった。工夫次第では幼小連携で行ったDVDなどによる連携の仕方などさまざまな角度から考えていく必要を感じた。次年度以降、連携の在り方を検討していきたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	<p>新しい幼稚園教育要領に基づき、子どもの主体性を大切にした保育の取り組みや適切な環境構成や再構成の工夫についてさらに深めていく。全体のカリキュラム内の細かい変更を子どもたちの育ちや学びに</p>

	<p>合わせて見直しを行い、子どもにとって直接体験のできるカリキュラムを新しく盛り込み職員全体で共有を図っていく。ウェブ型記録やウェブ式指導計画、ドキュメンテーションなどの取組を進めていく。</p>
<p>保育環境の充実</p>	<p>子どもの育ち、学びに応じた教育・保育環境の充実について、室内環境および園庭の環境について職員間で検討していく。各クラスの環境を充実すること、また、今後共有スペースについても検討することを目標とする。</p>
<p>安全管理体制の強化</p>	<p>万一の自然災害、様々な危険に対して、職員配置・保育プログラムの見直し安全計画を検討し、全教職員への周知を行う。</p> <p>園舎施設全体の各箇所における安全点検を決められた担当者を中心に定期的に行う。遊具や 用品・用具についても同様の徹底を行う。</p> <p>園内研修での「ヒヤリ・ハット」を見直し、遊具の使い方や保育室の環境などを全職員で安全面への共通理解を行う。</p>
<p>教職員の資質向上</p>	<p>職位や職務内容に応じて、各職員が該当するキャリアアップ研修や横浜市、幼稚園協会、保土ヶ谷区が開催する研修に参加し、必要な知識及び技能を身につけ保育の質の向上に努める。また、園内研修をさらに充実させて外部研修及び職員が受講した研修を発表する機会などを設け、共通理解を図る。</p>

学校評価 幼稚園チェックリスト<ステップ1>

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

I 教育目標・教育方針

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育目標や教育方針はわかりやすい。	B
②	園の教育目標が子どもたちの中に生きている。	
③	園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話をする機会がある。	
④	園の教育目標は、幼稚園教育要領の内容に沿ったものになっていると言える。	
⑤	教育方針は、その時々幼児に合ったものになるように定期的に見直されている。	
⑥	園の教育目標は、園の創立の理念を生かしている。	

II 教育課程・指導計画

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	B
②	子どもたちの年齢ごとの教育課程がある。	
③	園の教育課程は、園長と先生方が話し合いながら作られている。	
④	園の教育課程は、必要に応じて見直されている。	
⑤	幼児のしたいことや、興味のあることを取り入れられるようになっている。	
⑥	幼児の教育に、地域の自然や施設を活用している。	

III 教育環境

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	B
②	幼児の動きや視線の動きに気を配った構成をしている。	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り、消防署見学など）を取り入れるようにしている。	
⑤	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換が行われている。	
⑥	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をしている。	

IV 教育の内容・方法

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	教育内容や方法は、園の教育課程を基にして作られている。	B
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	
③	園で動物を飼ったり植物を育てたりしている。	
④	遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	
⑤	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）をする時間を大切にしている。	
⑥	食べ物についての話をする機会がある。	

V 教師の役割・資質向上

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている。	B
②	すべての幼児に平等に接するように心がけている。	
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	
④	研修に行った先生の研修内容は、全員に紹介される。	
⑤	幼児のモデルとなれるよう気をつけている。	
⑥	保護者との信頼関係ができている。	

VI 子育て支援

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	保護者の子育てについての相談にのっている。	B
②	園や園庭の開放を行っている。	
③	子育て支援の内容について全員で話し合いをしている。	
④	子育て講演、情報提供を行っている。	
⑤	3歳未満の、親子の子育て支援をしている。	
⑥	幼児のことについて相談できる専門機関がある。	

VII 地域住民や関係機関との連携

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	C
②	地域の小学校の行事や公開授業を見学に行く。	
③	地域の方は、園のことに興味を持ったり、園の方針を理解している。	
④	地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	
⑤	保護者だけでなく地域の人でも行事に協力している。	
⑥	地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	

VIII 運営管理

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	A
②	現金の管理は間違いのないように行っている。	
③	先生方は、災害や事故報告書の作り方を知っている。	
④	保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	
⑤	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	
⑥	園内での役割分担がはっきりと決まっている。	

以上